

とっぴと通信

2024年1月10日発行

250号

「とっぴと通信」は
略して「とっぴ」。
いつも「んていばさき
ありがとう」です。



明けましておめでとう
ございます。旧年中は大
変お世話になり、誠に
ありがとうございました。
本年もどうぞ宜しく、
お願い致します。
では今月もはりきっていきましょー！

出したものが返ってくる

今から35年前、サラリーマンだった24歳
ごろの話です。当時、福岡市天神の
親不孝通りに、九州最大級のディスコ
があり、毎晩、若者で賑わってまし
た。ディスコを経営していた会社は、
他にも多くのお店を持ち、福岡の
ナイト業界の中心的存在でした。
私が勤めていた会社は、その会社と
カライケ機器で取引があり、私が
担当でした。F社長はとても温厚
でダンディなお方でした。左ハンドルの
ベンツに乗っておられ、駐車場の
切符をマジックハンドでやり取りする
そんなお茶目な一面もある。今風に
言えばイケオジ社長でした。外見も
さることながら、中身も素晴らしい
方でした。F社長からいただく年

賀状は、毎年、社長ご本人、ご両親、
奥さま、お子様が写った家族写真
でした。実は初めてもらった時、とて
も驚いたのです。なぜなら、あれほど
の大きな会社の社長が、私ごとき
営業マンへ、ご家族の写真を送っ
て下さることに、びっくりしたのです。
おそらく誰にでも送られていたと思
うのですが、なんだかご家族を紹
介された気になり、自分勝手に親
しみを持ったのです。一枚の年賀
状で心をわしづかみにされた私は、
その日以来、F社長のお役に立つ
ことが、私の喜びになりました。
業界の最新情報は、一番に持って
行くようになりました。またそれ
をニコニコとうなづきながら聞い
ていただけるので、ますます好き
になったのです。そしていつの日か、
私も家族を持ったら、社長のように
年賀状は家族写真と決め、現在
に至っております。もちろん私とF
社長とでは、格が違いますけどね。
ただこれにはハードルが一つ。実は
妻は恥ずかしがって、いつも嫌が

今を生きる

私は辰年生まれです。還暦ですので
初心に返り「今を生きる」を抱負に
します。今を生き始めると、人生が
充実し幸せになるのですが、これ
が意外と難しいのです。人の悩み
こそ、あの時ああすればよかった。と
過去を悔やんでいる時か、あるいは
まだ起こってこない未来を心配
している時のどちらかです。今この
瞬間に心が無い時です。分かっている
も、つい思考が飛んで行きます。
さて年末年始に「孤独のグルメ」が
放送されました。井之頭五郎さん
は、立ち寄った食堂で、食材の味は
もちろん、香り、色、形、お店の雰囲気
を吟味して、「ほー、いいじゃないか」と
つぶやく心の声が魅カの番組で
す。私、毎回思うのですが、これが
今を生きている食べ方なんだろ
うな。食事は目の前の料理に
集中して命をいただかないといけ

ないです。よね。ながら食事をする
私としては、反省させられっぱなしです。
またアマゾンの奥地にピダハン族と
いう40人足らずの少数民族がいま
す。彼らは世界一幸せな民族と言
われています。それはなぜか。彼らは
過去や未来を表す言語を持ち
ません。そもそも過去や未来とい
た概念が無いのです。ですから
常に今を生きています。(また左
右・色・数といった概念も持ちません)
彼らの人生は、一日完結型なので
す。一日一生を地で行っています。で
すから悩みがありません。そもそも悩
みの意味を知りません。1977年、ピダ
ハン族にキリスト教を布教させよ
うと試みた、エヴェレットという言語
学者がいました。ところがピダハン族
の生き方に魅せられ、価
値観がくつがえり、逆に
信仰を捨ててしまいました。
「彼らほど、いつも笑顔で、
これ以上に幸せに見え
る民族はいない。本
来人間の生き方、こ
んな感じだったのかも
しれません。」



発行/有限会社アサム 平川雅樹
〒819-1127 福岡県糸島市有田中央 2-14-36
Tel: 092-321-4001 Fax: 092-321-4002
・伊都倫理法人会ブログ : <https://itorinri.com/>